

愛犬のワクチン接種について ご家族に説明するための ガイドブック



インフォームド・コンセントガイド

Vol. **5**

愛犬のワクチン接種についてご家族に説明するためのガイドブック

インフォームド・コンセントガイド

5



予防
本気宣言
ワクチン

病気にさせない。
当院は予防に本気で
取り組みます。

ワクチンについてもっと知るなら
犬のワクチン.com

犬のワクチン.com

検索



動物病院名

01

ワクチン接種は、おそろしい感染症から
愛犬を守るために有効な手段です*。



感染症にかかると・・・

頻繁な
通院

毎日の
看病

病気への
不安

治療費

入院費

検査費

*ワクチンの感染症予防率は100%ではありませんが、万一発症した場合でも、その症状を軽く済ませることができます。

02

犬の感染症には、こんな危険が・・・。

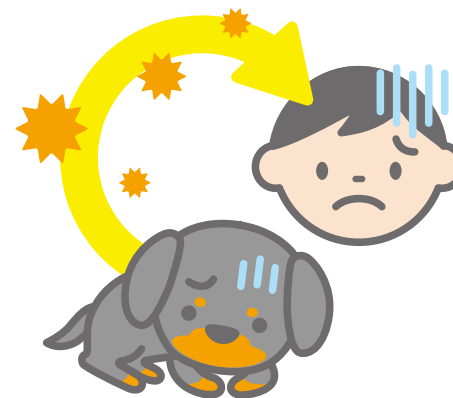
混合感染



後遺症



人への感染



● 狂犬病や犬レプトスピラ感染症などの特定の感染症に限る

死亡



全国の動物病院の **56.8%** で、ワクチンで守れる感染症が診断されています*。

※ 伴動物ワクチン懇話会調べ：混合ワクチンで守れる犬パルボウイルス、犬ジステンパーウイルス、犬伝染性肝炎、犬アデノウイルスⅡ型、犬パラインフルエンザウイルスのいずれかの感染症を「確定診断した」もしくは「その疑いのある症例を診断した」動物病院の割合。 ● 対象期間：2013年9月～2015年8月 ● 調査対象：全国600軒の動物病院

03

愛犬の健康をおびやかす、おそろしい感染症。

		病名	どんな病気	おもな症状	
義務 10種混合ワクチン 8種混合ワクチン 6種混合ワクチン 任意	義務	狂犬病	<ul style="list-style-type: none"> ●死亡率[高] ※発症するとほぼ100% ●多くの場合2週間以内に死亡 ●有効な治療法はない 	興奮・凶暴化 流涎 全身麻痺	
	任意	犬レプトスピラ感染症	ポモナ型	<ul style="list-style-type: none"> ●死亡率[高] ●2～3日以内に死亡することも 	発熱 筋肉痛 黄疸
			グリッポチフォーサ型		腎臓疾患や肝臓疾患
			イクテロヘモラジー型		歯肉からの出血
			カニコーラ型		脱水症状からの尿毒症
	任意	犬ジステンパー	<ul style="list-style-type: none"> ●死亡率[高] ●マヒなど後遺症が残る可能性 	高熱 鼻水 食欲不振	
	任意	犬パルボウイルス感染症	<ul style="list-style-type: none"> ●死亡率[高] ●伝染性[強] 	おう吐・下痢 急激な衰弱	
	任意	犬コロナウイルス感染症	<ul style="list-style-type: none"> ●パルボウイルスとの混合感染で重症化 	おう吐・下痢 胃腸炎	
任意	犬伝染性肝炎	<ul style="list-style-type: none"> ●生後1年未満の子犬が感染した場合、突然死の可能性 	発熱 おう吐・下痢 肝炎 目の白濁		
任意	犬アデノウイルス2型感染症	<ul style="list-style-type: none"> ●混合感染で重症化 	発熱 咳 鼻水 元気消失		
任意	犬パラインフルエンザウイルス感染症	<ul style="list-style-type: none"> ●伝染性[強] ●混合感染で重症化 	発熱 咳 鼻水 元気消失		

人にも感染

義務 義務のワクチン…法律で年1回の接種が義務付けられているワクチン(狂犬病)

任意 任意のワクチン…任意で定期的な接種が推奨されているワクチン

04

人にも感染する犬レプトスピラ感染症。
日本でも、多くのワンちゃんが発症しています。

犬レプトスピラ感染症の
約15年間の届出数

1,051件

●レプトスピラ菌には、約250の種類があります。カニコローラ型・イクテロヘモラジー型を含む7種類を発症した場合、届出が義務付けられています。

どうやって感染する？

ネズミの尿に汚染された水(川)や土を介して、
犬の粘膜や傷口から感染します。

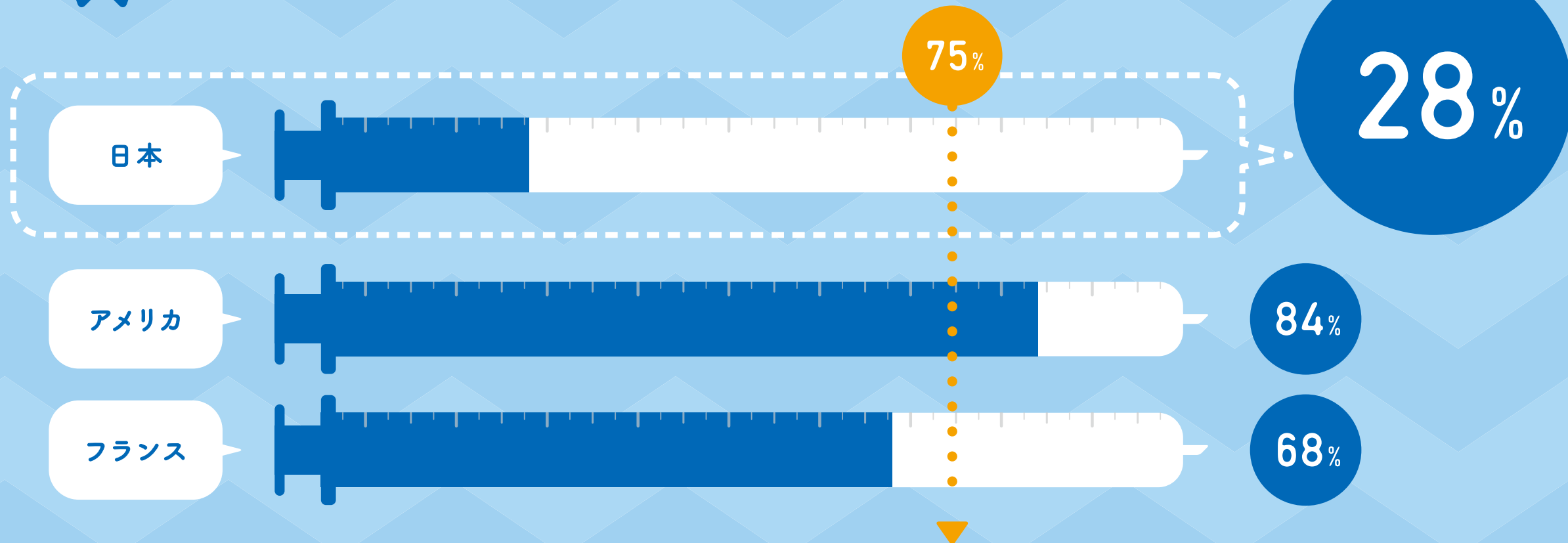
犬レプトスピラ感染症は
全国で発生。
九州・関西は特に注意！



資料：農林水産省「届出伝染病の県別発生状況」 ※平成10年～平成25年11月の累積

05

愛犬を危険にさらす感染症。
でも、日本のワクチン接種率は・・・。



集団の接種率（免疫）が75%以上で、その地域の病気は予防できると言われています*。

※シャルルニコルの法則

ワクチン接種でしっかりと対策することが大切です。

出典：伴侶動物ワクチン懇話会調べ

06

感染症を予防するワクチンには、 さまざまな種類があります。

義務



狂犬病ワクチン

狂犬病を予防するワクチン。

任意



単体ワクチン

特定の、ひとつの感染症^{*1}だけを予防するためのワクチン。



混合ワクチン

複数の感染症を予防するためのワクチン。6種、8種、10種など、さまざまな種類がある。

例

狂犬病
ワクチン

+

混合6種
ワクチン

や、

例

狂犬病
ワクチン

+

単体
ワクチン

+

混合8種
ワクチン

など^{*2}、

愛犬の体やライフスタイルに合わせて、異なる組み合わせができます。

獣医師と相談して、適切なワクチン接種をすることが大切です。

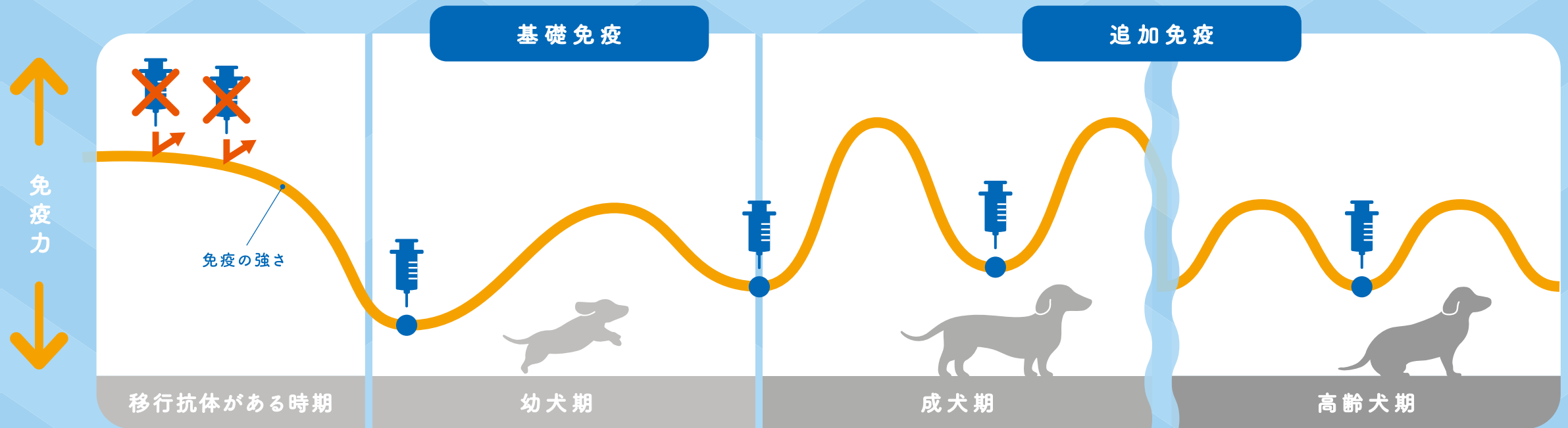
^{*1} パルボウイルス感染症、犬レプトスピラ感染症

^{*2} 同時接種ができない場合があります。詳しくは当院にご相談ください。

07

ワクチンは、定期的に接種することで 予防効果が高まります。

ワクチンの予防効果は一定ではありません。接種後、免疫力が再び下がったタイミングで改めて接種することが大切です。



母犬からもらう移行抗体がワクチンの効果を抑えるため、
生まれてすぐの初年度は2~3回の接種が必要です。

免疫力が下がるため、定期的な接種がさらに重要に。

接種時期などは獣医師と相談し、定期的な接種をこころがけましょう。

08

ワクチンの副反応について、 知っておきましょう。

ワクチンは、ごくまれに副反応を引き起こすことがあります。

ワクチンの
副反応による
おもな症状

- 01 おう吐・下痢
- 02 元気・食欲の減退
- 03 注射部位を痛がる
- 04 全身の痒み、発赤
- 05 顔のむくみや腫れ

普段と違う
様子がみられたら、
すみやかに当院に
ご連絡ください。



※ごくまれに、急性のアナフィラキシーショックによる痙攣や虚脱が
起こる可能性があり、重篤な場合は死亡するケースもあります。

09

接種のまえに、チェックしておきたいこと。

ワクチン接種では、接種前後の体調管理が大切です。

接種前は・・・

- 妊娠していないか
- 熱はないか
- からだに寄生虫はいないか
- 興奮していないか(神経質)

愛犬の体質に注意!

- アレルギー体質でないか[※]

※アレルギー体質の場合、まれにおう吐、下痢、唇やまぶたのむくみ、痙攣や虚脱を起こすことがあります。

接種後は・・・

当日

- 様子をよく見る
- 安静にする

2～3日間

- 激しい運動を控える
- シャンプーを控える

2～3週間

- 他の犬との接触を避ける

普段と違う様子が見られたら、すみやかに当院にご連絡ください。

適切なワクチン接種で、愛犬を感染症から守りましょう。